

《 第45回高高神田会のご案内 》

— 「重ね正月」に白みそ餡餅雑煮をいただき、厄落としをする会 —

2月は「二八(ニッパチ)」と呼ばれて世の中では仕事が暇で景気の良くない月といわれています。ところが今年の東京玉翠会は2月はイベントが目白押し、「菊池寛杯麻雀愛好会の大会(2月15日(土))」だの「漂流連歌会(2月8日(土))」だの週末はイベントだらけです。まあそれだけ東京玉翠会の数寄者達が活発に活動をしているという証左なのですが、この寒いのにご苦労なことではあります。

そういった中で恒例の「白みそ餡餅雑煮会」の日取り設定に悩んでおった次第。

当会は、旧暦の正月やら立春やら一応「正月」と呼べそうな休日に設定してまいりました。

今年の旧正月は1月31日(金)、ということは2月1日(土)は旧暦の1月2日。丁度良い具合に好い日程と相成りました。

さっそく、下記のとおりご案内をいたします。

開催日時 : **2月1日(土)** 旧暦1月2日

12:30から 16:00終了

※ 「かおりひめ」さんにはランチタイムをパスしてもらいますので12:30スタート

※ そのかわりディナータイムまでパスして頂くわけにも参りませんので終了は16:00厳守

場所 : **せとうち旬彩館「かおりひめ」**

港区新橋2-19-10新橋マリビル2階 (JR新橋銀座口すぐ)

Tel 03-5537-2684

会費 : **一応6,000円の予定**

今年も会場は昨年に引き続いてS53卒香川県職員の溝渕さんをお願いいたしました。去年のどんちゃん騒ぎで愛想を尽かされることなく快く「かおりひめ」さんにお引き受けいただきました。

また、「三木町の餅と野菜じゃないと讃岐の食文化は伝わらん！」と財務大臣が譲りませんので、今回もまたH3卒佐治珠実さんの三木町のご実家をお願いすることになりました。2002年からお世話になっておりましたので13年目になります。第一回の「白みそ餡餅雑煮会」の時に生まれた子供が中学生になってしまう期間です。佐治さんのご両親のご迷惑も顧みず、大したお礼もできず年だけが経ってしまいました。恐縮の限りです。郷土の雑煮で正月を祝うことができない恵まれない人を助けるためのNPO活動ということでお許しをいただきたいと思えます。

2月1日という日を紐解いてみますと、「重ね正月」という日だそうです。またの名を「一夜正月」「一日正月」。

旧暦では「朔日＝新月の日」に新年を迎えます。2月1日は新年最初の朔日であることから、一ヶ月で年が明けた、つまり2度目の正月ということで「重ね正月」。

厄年にあたる人は正月から厄年ですので、2度目の正月で1年が過ぎたと見做して、すなわち厄が落ちたと……… なんとこじつけのようですが、このような風習が過去にはあった。今ではすたれて誰も言いませんが、忙しい現代人にこそマッチした風習かもしれません。

厄年は男 25 歳・42 歳・61 歳、女 19 歳・33 歳・39 歳・61 歳。特に男 42 歳と女 33 歳は大厄で、前年(前厄)、翌年(後厄)の期間も気を付けなければならない由。

厄年にあたる人は厄除けのためにいろいろなことをしなければならないようです。

- ・「厄除けを神社仏閣に願います」 ご祈禱をしてもらうということです。
- ・「神社仏閣のお守りを身に付ける」ということはお守りを買って求めなければならないですね。
- ・「身に付けている小物をわざと落として身代りにさせる」 厄災を身代りの小物になすりつけて落とす。厄落とし。昔は男性は禪、女性は櫛などをわざと落としたとありましたが、櫛はともかく、禪をどのように落としたのかは興味のあるところ。どちらにしても何か落とすわけですから物いりな話ですよ。
- ・「地方によっては餅などを人に配る」 厄を分散させるということらしいですが、配られた方も迷惑な話だし、配る人も大変です。配る人が少なければそれだけ厚く厄を配ってしまいますので、なるべく多くの人に配らないと恨みを買ってしまいそうです。これまたお金のかかりそうな話です。
- ・「厄除けの贈り物を貰う」 つまり周りの人からなにかプレゼントをもらうということです。「長いもの」「鱗模様のもの」「七色のもの」が良いとされている由。ネクタイ・ベルト・スカーフ・財布などなど。これは「厄年」の本人はもらえるからいいようなものの、周りの人にとっては良い迷惑ともいえます。

このように「厄除け」には結構いろいろお金がかかたりします。だいたい厄年の根拠はあいまいですから、「厄年」を迎えることが最大の厄かもしれません。

「重ね正月」にはもう一つの効用？である「二月礼者」という風習もあるようです。

「二月礼者」とは「正月に年始回りができなかった人が「重ね正月」の 2 月 1 日に新年の挨拶回りをすることができる」という習慣の由。

これもまた、近年は海外で正月を過ごすという方も多くなってきましたので、そのような現代人にはピッタリフィットの風習ではないでしょうか。なんで廃れたのだろうか不思議です。

そういうことで、今年はせっかく「重ね正月」の日を開催いたしますので、厄年(前厄と後厄を含む)にあたる方(男 25 歳・41 歳・42 歳・43 歳・61 歳、女 19 歳・32 歳・33 歳・34 歳・39 歳、61 歳)はとにかく参加して厄落としをいたしましょう。その際には会場に何か落としていきましょう。参加者各位に何かを配れば(おとし玉など良いかもしれません)更に万全です。その代わりに何かプレゼントをもらえる可能性とゼロではありません。

また、厄年でない方には神田会の集まりは年明けこの日が初めてですので、「二月礼者」となって平生からお世話になっている方々にご挨拶するにはもってこいの日となります。厄払いのものを何かもらえるかどうかはわかりませんが……

2014 年は甲午の年、十干十二支の半分が終わって丁度折り返しの 31 年目となります。

皆様が心新たにスタートを切れますよう。

それではいつものとおり下記の申込書にお申し込みください。

……………出欠の返信用紙（2014. 2. 1. 第45回神田会）……………

fax 送信 03-5296-7678 岡崎宛

参加
参加人数

欠席

卒業年度
氏名